

入試日程

2020年度 博士課程前期課程

一般 社会人	試験日	出願期間
スターリング大学 ダブルディグリーコース※ 英語教員対象 1年制修士学位コース	第1次	2019年 9月14日(土) 2019年 8月22日(木)～ 8月29日(木)
	第2次	2019年 11月16日(土) 2019年 10月24日(木)～10月31日(木)
	第3次	2020年 2月22日(土) 2020年 1月30日(木)～ 2月 6日(木)

※スターリング大学ダブルディグリーコース第2次および第3次入試は、定員充足状況により実施しないことがあります。

学内推薦	試験日	出願期間
学内推薦第1次	2019年 9月14日(土)	2019年 8月22日(木)～ 8月29日(木)
学内推薦第2次	2019年 11月16日(土)	2019年 10月24日(木)～10月31日(木)

2019年度・2020年度 博士課程後期課程

2019年度 秋入学	試験日	出願期間
秋学期入学	2019年 7月 6日(土)	2019年 6月13日(木)～ 6月20日(木)

2020年度 春入学	試験日	出願期間
春学期入学	2020年 2月21日(金)	2020年 1月30日(木)～ 2月 6日(木)

◎交通アクセス



西宮上ヶ原キャンパス

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155
阪急電車 今津線「甲東園」駅または「仁川」駅から西へ徒歩約12分
または「甲東園」駅から阪急バス約5分「関西学院前」下車



大阪梅田キャンパス

〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19(アプローズタワー10.14階)
阪急電車「梅田」駅から北へ徒歩約5分



関西学院大学大学院

言語コミュニケーション文化研究科

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155 Tel.0798-54-6180 Fax.0798-54-6190
http://www.kwansei.ac.jp/g_language/

言語 コミュニケーション 文化研究科

Graduate School of Language,
Communication, and Culture

2020

関西学院大学大学院

Better Communication for a Better World

コミュニケーションを柱に、4領域で言語と文化を探究

言語と文化の両面から人と社会にアプローチする

「言語コミュニケーション文化学」は

人と社会の関係を地球レベルで進化させ、未来を輝かせる大きな力になります。

本研究科では、言葉や文化の壁を超えて互いの力を分かち合い、

高い志をもって未来を創造する

グローバル化の時代の担い手となる人材を育成します。

言語科学
プログラム

人が言語をどのように
駆使するかを解明

言語文化学
プログラム

地域文化、多言語多文化、
表象文化の諸問題を探究

言語教育学
プログラム

学際的・実証的な
言語教育方法を探究

日本語教育学
プログラム

外国人を対象とした
日本語教育を探究

言語運用能力をブラッシュアップ

本研究科では言語運用能力をブラッシュアップするための授業を開講しています。国際的な学会でのプレゼンテーションやディベート、そして研究論文執筆に必要な「読む・書く・聴く・話す」能力を、「言語コミュニケーション能力養成科目」(英語・フランス語・ドイツ語・中国語)で養成します。

[研究科委員長からのメッセージ]

AIにはできない言語活動の 探究によって世界市民になる

AIの開発が加速していくなか、人間にだけできることは何かと問われています。たしかにAIは、人間が行っている仕事の大部分を人間よりも正確にこなすことができるようになるでしょう。しかし人間の言語活動は、AIが秀でる領域だけに尽きるのでしょうか。言語とコミュニケーションの実態、そして言葉によって産み出される文化的活動を詳しく調べれば、人間にしかできないことの豊かさを発見して驚くことでしょう。

本研究科は、高度な言語コミュニケーション能力を養成し、その基盤の上に言語および言語使用の実態を追求する言語科学、言語と表象に深く結びついた文化を分析する文化学、さらに言語を効果的に習得させる方法論を探究する言語教育学、外国語としての日本語教育の方法を探究する日本語教育学の研究を推進することによって、言語コミュニケーション文化を総合的に研究することを目的としています。

グローバル化が進んでいくなかで、自国の利益をあらゆる優先しようとする国家が現れてきている現在、国や地域に固有の伝統と文化を尊重するとともに、国際社会での協力をいかに求めるかが緊急な課題となっています。世界市民になるには、各地域で使用される言語に精通してそれぞれの文化を深く理解し、そのうえで異文化間のしかるべきコミュニケーションを模索していくことが重要になるでしょう。自らの視点を世界市民的な視野の下につねに問いなおし、研究を深めようと望む学生を本研究科は求めています。

言語コミュニケーション文化研究科委員長

上田 和彦





世界中の留学生が集う 英国スターリング大学で学び、 両大学の修士号を取得する。

最短2年間で、本研究科修士号(言語教育学または言語科学)および
 スターリング大学大学院 MSc (TESOL) の2つの修士号を取得できます。



University of Stirling
 MSc in TESOL
 Programmes Director
Anne Lawrie

<Message>

As the Programme Director for the Double Degree between the universities of Kwasei Gakuin and Stirling, I am delighted to report that our first Double Degree student graduated in March 2018. After two years of study, this student graduated with two Master level degrees rather than one.

In an increasingly competitive world, I believe that Double Degrees are a sign of the future. In the world of teaching in general and TESOL in particular, the more exposure to and awareness of different learning and teaching styles can only enrich and develop our knowledge and understanding of the field, which, in turn, informs our own practice. By providing the opportunity to study in Japan and Scotland, our Double Degree offers that opportunity precisely. Other benefits of the Double Degree programme include: it provides an excellent balance between theory and practice; it increases your cultural awareness as you work and study with native and non-native speaking students from other parts of the world and most importantly, it increases your future employability and promotion prospects. Graduates of our Double Degree are truly global citizens.

2つの修士号を取得できる
 ダブルディグリーコースです。

関西学院大学大学院からスターリング大学大学院に2セメスター留学し、所定の単位を修得して双方の修士論文審査に合格することによって、両大学の修士号を取得できる制度です。

TESOLを専攻し英語教育を学ぶことができます。

世界各国の留学生と机を並べながら、最新の研究動向に精通したアカデミックスタッフのもと、英語教育の実践的テクニックと、その裏付けとなる理論を学ぶことができます。

TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages)
 英語の非母語話者への英語教授法。スターリング大学では、モジュール(科目)選択の組み合わせによって、TESOL、TESOL Applied Linguistics、TESOL Computer Assisted Learningの3つから、取得する修士号(MSc)を選ぶことができます。



修了生からのメッセージ

私はダブルディグリーコース1期生として2018年3月に両大学で修士号を取得しました。本コースの醍醐味は、2つの国の違った教育を経験できることです。スターリング大学では、まるで絵本の世界のような大自然に囲まれた環境で、1年間研究に集中することが出来ました。そしてグループワークなどでは、留学生のもつ文化の違いからくる笑いあり・涙ありの「あの時、あの場所、あのメンバー」だったからできた特別な経験が今でも思い出として蘇ってきます。また、多くの一期一会の経験により視野が広がったことや、多様性を受け入れようと試行錯誤し精神的に強くなったことは、現在の仕事にも多分に生かされています。私はこれまで日本・アメリカ・カナダ・中国で生活してきましたが、本コースでの学びと経験を通じて、さらにバイカルチャル能力が得られました。ぜひ多くの方に、素晴らしい経験を通して達成感や充実感を体験してほしいです。



中井 理恵
 2018年3月 修士課程修了

スターリング大学

創立: 1967年
 学校種別: 国立
 所在地: 英国スコットランド



世界の大学ランキングにおいて総合五つ星を獲得する英国スコットランドの総合大学。湖や18世紀の古城を取り囲む330エーカーの広大なキャンパスに、講義棟、図書館、学生寮、スポーツ施設、アート・センター、カフェ、レストランが建ち並び、11,000人以上の学生が学ぶ。115ヶ国からの留学生が全体の23%を占め、学習・生活の両面におけるサポートも充実している。

*QS World University Rankings 2015/16

2年間の基本的な流れ

1年次		2年次	
セメスター1 (4月~7月)	セメスター2 (9月~12月)	セメスター3 (1月~8月)	セメスター4 (9月~3月)
関西学院大学 言語コミュニケーション能力 養成科目を中心に履修	スターリング大学 TESOLコースで 専門科目履修	スターリング大学 TESOLコースで 専門科目履修 学位論文提出	関西学院大学 専門科目、演習科目の履修 学位論文提出

学費・奨学金

学 費				奨学金
1年春学期	1年秋学期	2年春学期	2年秋学期	
約35万円 (+入学金23万円)	関西学院大学: 5万円 (通常: 約70万円) スターリング大学: £8,000 (通常: £13,950)		約35万円	月額7万円支給 (留学期間中)

その他

◎専修免許(英語)取得可能

主な受験資格

希望者は「スターリング大学ダブルディグリーコース入試」を受験します。

主な受験資格
IELTS: 6.0以上 (Speaking 5.5, Listening 6.0, Reading & Writing 6.5) / TOEFL® iBT TEST: 80点以上 (Speaking 17, Listening 20, Reading & Writing 23) / Pearson Test of English (Academic) : 54点以上 (Speaking 51, Listening 56, Reading & Writing 60) / Cambridge Certificate of Proficiency in English: Grade C / Cambridge Certificate of Advanced English: Grade C

入学試験形態
<input type="checkbox"/> 述 試 験

充実のカリキュラムと指導体制

前期課程では、4つのプログラムに分かれて学びますが、他のプログラムの科目も自由に履修できる柔軟なカリキュラムを設定しています。また、指導教員やサブ・アドバイザーによるきめ細かな指導を徹底しており、確かな研究能力の養成に取り組んでいます。

Courses

「研究演習」を履修する 修士論文コース

出願時に提出した研究計画書に基づき、指導教員(研究演習担当教員)から「研究演習」を通じて研究指導を受けながら研究計画を立て、先行研究などの必須文献を通して知識を深めながら自律的に研究を進め、修士論文の作成に取り組めます。修士論文は学術的、理論的色彩の強いもの、もしくは調査分析をもとにした実証的な内容が求められます。

「課題研究」を履修する 課題研究コース

出願時に提出した研究計画書に基づき、入学後に指導教員、サブ・アドバイザーによるアドバイザー・コミッティが結成されます。このアドバイザー・コミッティとの年2回の相談会と個別相談により、各自が独自の課題について研究計画を立て、課題研究論文作成に取り組めます。課題研究論文はフィールド・ワークなど実践的、実学的な論文内容も含まれますが、修士論文と同等レベルの内容が求められます。なお、課題研究コースは、言語科学、言語教育学に設置しています。授業は夜間に大阪梅田キャンパスを中心に履修して修了することができます。

両大学の修士号が取得できる スターリング大学 ダブルディグリーコース

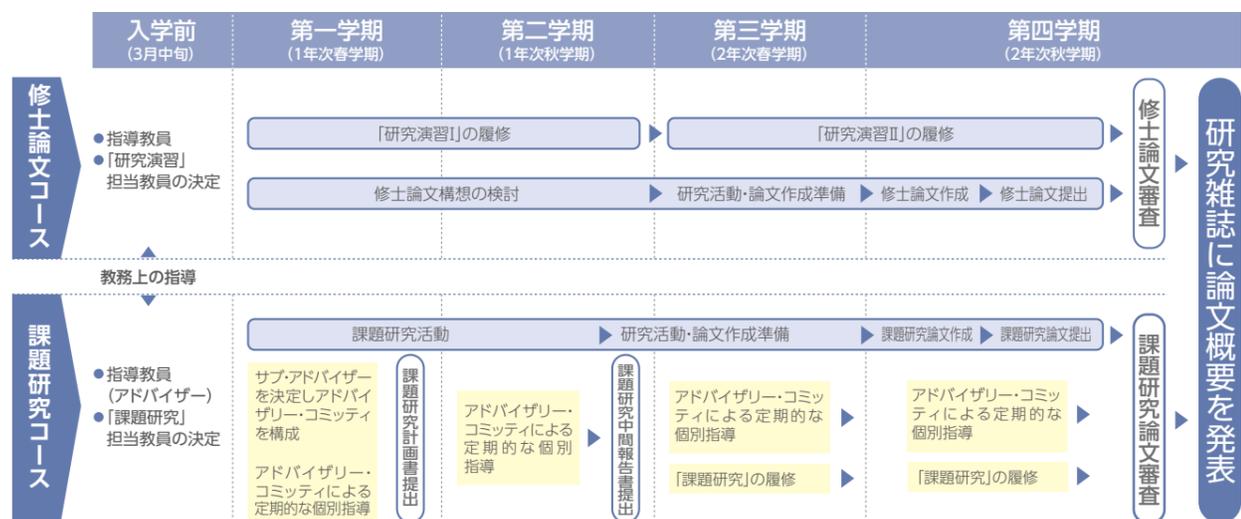
出願時に提出した研究計画書に基づき、入学後に指導教員(研究演習担当教員)から「研究演習」を通じて研究指導を受けながら研究を進めていきます。1年次春学期に「研究演習Ⅰ」を履修し、秋学期からはスターリング大学で「研究演習Ⅰ」、「研究演習Ⅱ」相当科目を履修し、修士論文の作成に取り組めます。修士論文は学術的、理論的色彩の強い内容や調査をもとにした実証的な内容が求められます。

英語教育の実務家としてスキルアップを図る 英語教員対象 1年制修士学位コース

出願時に提出した研究計画に基づき、指導教員(研究演習担当教員)、サブ・アドバイザー2名によりアドバイザー・コミッティを結成し、年2回の相談会と研究演習を通じて課題研究論文を作成します。課題研究論文を選択しない場合は、口頭による英語でのプレゼンテーションによって修士学位に相当する専門分野の知識や技能があるかを審査します。研究テーマについても実証的な内容に限らず、教育実践に焦点を当て、教材研究、授業研究など幅広く研究テーマを選択することができます。

アドバイザー・コミッティ 課題研究コース、英語教員対象1年制修士学位コース生に対して、指導教員1名とサブ・アドバイザー2名の計3名でアドバイザー・コミッティを構成し、学生の研究活動をサポートします。修了までの毎学期、アドバイザー・コミッティ相談会が実施され、コミッティのメンバーと各自の研究計画や進捗状況について相談するほか、相談会以外でもe-mail等を活用した研究指導を受けることが可能です。

■ 前期課程(2年間)の流れ



※ダブルディグリーコースはP4参照。

個人指導、集団指導で 手厚くサポート

本研究科は、言語教育、異文化理解、第二言語習得、心理言語学、対照言語学、社会言語学、会話分析など、言語と文化が深く関わりあう領域を専門とする研究者を輩出しています。後期課程では、指導教員が実施する個人指導の「個別研究指導」と、指導教員を含む3名の教員が実施する集団指導の「リサーチセミナー」の2つによる研究指導が行われます。

Courses

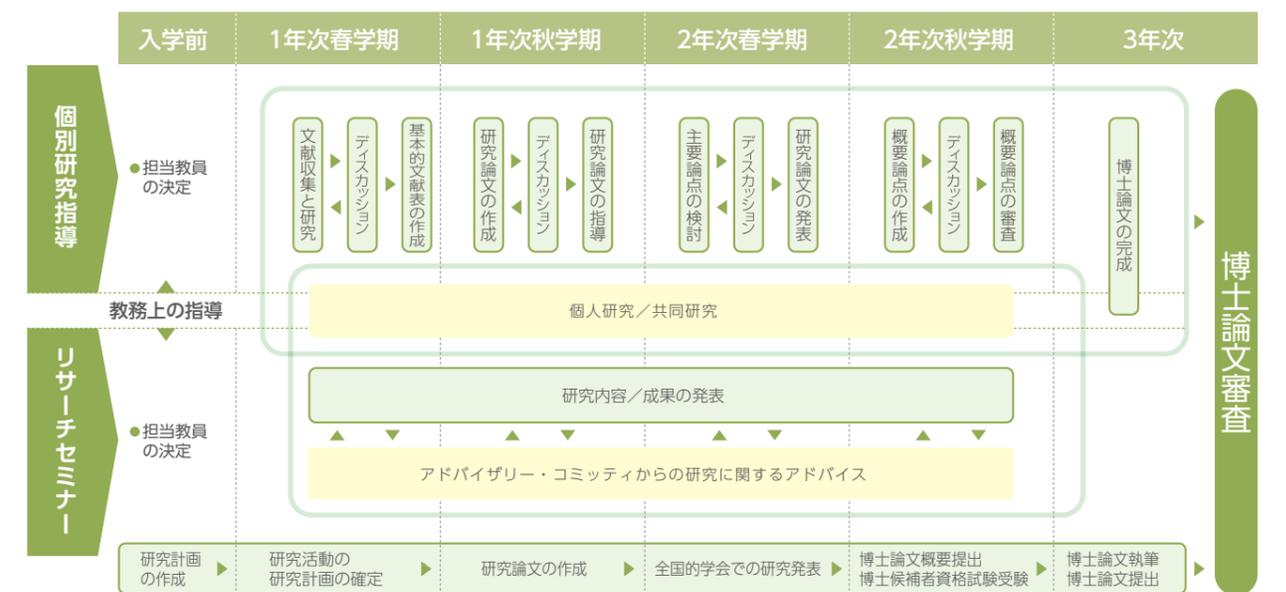
個別研究指導

指導教員(アドバイザー・コミッティのアドバイザー)による研究演習です。学生による研究の経過報告と担当教員によるコメントや助言を基本に、週に1回、3年間にわたって指導し、博士論文の作成を進めます。専門的な研究指導を行うとともに、課程修了後、言語コミュニケーション文化の専門研究者として独り立ちするために、文献・資料の収集方法、論文作成方法などの技術的側面の指導から研究に対する姿勢まで全般にわたって指導します。

リサーチセミナー

集団指導体制によって実施されるセミナーです。言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学の4領域を統合した言語コミュニケーション文化の観点から横断的、総合的に各自の研究を推進し、課程修了後、研究者として自立して研究を遂行していく能力を身に付けることを目標とします。セミナーは、3名の教員からなるアドバイザー・コミッティが担当し、毎月1回、学生による研究内容の報告を中心に行われます。なお、本セミナーは研究科内で原則として公開とし、アドバイザー・コミッティ以外の他の研究科教員及び院生にも開かれています。

■ 後期課程(3年間)の流れ



※博士課程後期課程の必要修得単位数は12単位とし、個別研究指導12単位およびリサーチセミナー6セメスター分の履修を必修とする。

人が言語を駆使する仕組みを

言語、心理、社会

など多角的に追究

言語科学 プログラム

ことばを科学的視点から分析し、
言語の実態を明らかにする

言語構造、言語コミュニケーションを有効に成り立たせる条件、人間が言語をどのように駆使するかなどを科学的に解明します。研究分野としては、音声学、音韻論、統語論、意味論といった言語科学の基礎を成す分野や、文と文脈との関連性を考える語用論、言語と社会との関わりを研究する社会言語学、言語と心理との関係を研究する心理言語学、言語使用の実態研究を行うコーパス言



語学、言語表現論など、言語コミュニケーション能力の解明に関する分野があります。後者は言語教育や文化に関する研究とも関係しています。基礎分野を概観する講義で言語を科学的な分析の対象にすることを学び、さらに各論の講義において、その分野での研究方法を身につけることができますようになっています。

クローズアップ講義

音声学

言語の音声面における規則や現象に焦点を当てます。講座の後半では音韻論(音体系中の規則を明らかにする分野)も扱います。研究対象言語は主に日本語と英語ですが、音声学の範囲は大変広いので、外国語教育に役立つ調音音声学を主に取り扱います。

言語習得論

人間は母語だけではなく、第二言語(外国語)を習得する能力を持ちます。第二言語習得における様々なメカニズム(たとえば、母語からの転移、形態素などの習得順序、個人差)が、言語理論の成果をもとにどのように解明されてきたか考察します。

心理言語学

認知心理学や生理心理学で使われている実験方法から得られるデータに基づいて、言語の理解や発話生産の過程及び言語の獲得・喪失のしくみを明らかにする学問分野です。母語話者だけではなく、第二言語の学習者についての研究も扱っています。

コーパス言語学

コーパス言語学とは何か、そして、英語のコーパスを使った実際的な研究方法について学びます。コーパスの基礎的理論を理解したうえで、コーパスをどのように言語研究や辞書編纂に活かしていくことができるか検討していきます。

修士論文・課題研究論文テーマ(抜粋)

- カタカナ語における長母音の生成—日本語母語話者と日本語学習者の比較—
- A Corpus-Based Analysis of *Take*: With Special Reference to Its Linguistic Formal Types
- On the Licensing of Negative Polarity Items in the Complement of Inherently Negative Verbs
- 日本語かき混ぜ文におけるフィラーギャップ依存関係の処理過程—事象関連電位を指標として—
- The Syntactic and Semantic Differences of Modal Adjectives: With Special Reference to *Probable, Likely, and Possible*
- 聾学校におけるろう児と教師の関係性についての社会言語学的研究

Message from Students

言語学と他分野をつなぐことで、
新たな研究アイデアが生まれます。

進学先を検討している時に、本研究科にコーパス言語学や言語心理学など異なる手法を用いて研究を行っている先生方が揃っていることを知り、ここならば自分の研究の幅が広がれると考えて入学しました。ゼミは指導教授とマンツーマンだったので、1週間の間に発表する内容を作るのに苦心しました。ただ、多くのケーススタディを行い、多くの失敗を繰り返したことは成長につながったと思います。修士論文として取り組んだのは「慣用句らしさ」の数値化。日本語の慣用句が、他の表現と比べたときに慣用句らしい表現か、慣用句らしくない表現かをコンピュータで数値的に推定するプログラムを組み、有効性を検証しました。卒業後は、システムエンジニアとして働きますが、どこかのタイミングで大学院に戻り、言語学と他分野をつなげる研究を続けたいと考えています。



岡田 優也
前期課程 修士論文コース 2019年3月修了

背景、理論、影響、etc.
言語への興味は尽きません。

大学時代から国際交流のボランティアを続けており、各言語の仕組みやその社会的文化背景に興味を持っていました。本研究科なら、仕事を辞めることなく梅田で夜間の授業を受講して単位が取得でき、また国連・外交コースも副専攻として一緒に学べることを知り、意を決して受験しました。主専攻では、言語の成り立ちや歴史、また構造理論といった様々な角度から言語を捉えることを学び、その面白さを感じています。また、対照言語学といった比較的新しい分野の講義も大変興味深く、研究のあり方や言語の捉え方も時代とともに変化することを実感し、もっと時間をかけて学びたいと思いました。課題研究論文では、国の情勢などにより英語が公用語となったために、使われなくなり話す人が減ってきている少数言語の保護や復興をテーマに取り組みたいと考えています。



加納 央子
前期課程 課題研究コース2年
(副専攻: 国連・外交コース)



英語圏、フランス語圏、ドイツ語圏、中国語圏の

言語と文化を 研究

言語文化学 プログラム



境界線を超える
～多言語・多文化社会への学際的アプローチ～

多言語・多文化社会を積極的に理解し、異文化理解の視点からグローバルに行動できる人材を養成します。「比較文化学」「異文化理解」などの科目は言語や文化の境界線を超えようとする科学です。各プログラムの特徴ですが、まず「地域文化研究プログラム」はヨーロッパ、北米、日本を含む東アジア地域の言語や文化にかかわる基礎

研究を踏まえて、言語と文化の問題をさまざまな角度から扱います。「多言語多文化学際プログラム」は境界線を超えた言語・文化事象に関わる多彩な問題を扱います。また「映像演劇文化プログラム」は、映画・演劇という文字テキストの枠を超えた表象文化に関わる問題群を扱います。

クローズアップ講義

日本文化

近年、「日本的なもの」を他国の文化から差別化し、再評価する動きが日本国内にあります。和食、富士山、桜など。この講義では「日本的なもの」という表象の起源をさぐると共に、それを徹底して「外から」相対化することをめざします。

言語文化学

3人の教員によるオムニバス形式の授業。3つの文化圏—ドイツ語圏、1920年代パリ、アメリカ南部—を通して言語文化の多様性と歴史を学ぶと同時に、人文科学研究の在り方そのものも批判的に考えます。「言語文化」を研究するとは？ぜひ一緒に考えましょう。

多言語主義・多文化共生

人の移動が激しくなり、社会は多文化・多言語化しています。その現象を、シティズンシップ教育、海外と国内の日本語教育、ヨーロッパの言語政策、ヘイトスピーチ、猪飼野の民族関係、日本の多言語化などを題材にして質的に考察します。

映画学

映画学Aではアメリカ、映画学Bではアジアを軸に、映画／映像の分析を通じて、文化を多面的に理解することを目指します。テキストとコンテキスト（文化的・社会的・歴史的文脈）を意識し、クロスメディア研究から見えてくる複雑な文化体系を学問しましょう。

■ 修士論文・課題研究論文テーマ(抜粋)

- アメリカ大統領に立候補した最初の女性—伝記からみたヴィクトリア・ウッドハルと19世紀アメリカ社会—
- カナダ在住国際結婚の日本人女性達のライフストーリー
- 日本語学習者が持つ日本のイメージとその学習意識—オーストラリア・ビクトリア州の中等学校の場合—
- A Contrastive Study of Verbal and Non-Verbal Expressions in Japan and the United States: By Comparison of Japanese Original Films and Their Hollywood Remakes
- John Irvingの抱く家族像—集合体の表象としての建物の影響力
- フランスと日本の子育て文化

Message from Students

大好きな「映画」をテーマに、
ここでしかできないことができた2年間。

修士論文のテーマは、「日本映画における余白ショットのモチーフ 小津安二郎から岩井俊二」です。ハリウッド映画であれば、人物の変化によってストーリーを進めるのが基本ですが、日本映画、特に小津安二郎は、例えば人が小さく映る、人がいないなどのショットを多用しており、面白いなと思いました。岩井俊二も好きな監督で、ショットの面でも技法の面でも小津映画と共通する部分がたくさんあります。この日本映画の独特な表現に惹かれ、研究テーマにしました。学部と違い、大学院では自分の意見を考えて数多く出すことが重視されます。修士論文はボリュームが違いますし、1年間を使って書き上げることはすごく達成感があり、自分の内面的なセンスが磨かれました。4月から就職しますが、ここで培ったものはどのような環境でも活かせるでしょう。



田 雨時
前期課程 修士論文コース 2019年3月修了

学びたい気持ちに、
応えてくれる、刺激をくれる場所です。

育兒が一段落したこともあり、他大学に学部生として入り直しました。そこで異文化コミュニケーションについて学んだことをきっかけに、趣味である映画から海外文化にアプローチしてみたいと考えました。修士論文では映画『ゴッドファーザー』を取り上げ、男性中心のマフィア社会の中で女性たちはどのように描かれているのか、ショットの分析をもとに、映画の中で女性表象を探りました。大学院の講義は少人数制なので、先生とのコミュニケーションが密に取れます。また、ゼミでは多様な年齢の人と一緒に学び、研究について語り合うことができます。今後、後期課程に進学を希望しており、これまでの研究を土台にし、分析の質をさらに高めていきたいと考えています。今、このように思えるのも、前期課程での2年間がとても充実したものだからです。



大黒 優子
前期課程 修士論文コース 2019年3月修了



英語教育における学際的、

実証的な 言語教育方法

を探究

言語教育学 プログラム

言語教育の変容に柔軟に対応できる
確かな英語教育力を養成

今、外国語の学習・習得研究が脚光を浴びています。なぜでしょうか。これまで言語教育学の主な目的は、その研究成果を教室での教授法に
応用することでした。しかしそれだけでなく、外国語の習得
(acquisition)という「窓」から、言語習得という「知的いとなみ」、さらには
人の「こころの仕組み」を調べる…そんな領域へと変貌したからです。



言語の習得や教育の基本を扱う言語教育学、第二言語習得、早期英
語教育理論などから、中高生に英語を教える実践を学ぶ英語教育実
践、教育評価や、小学校での外国語活動のための小学校英語教育実
践まで、言語教育学の全領域をサポートします。現代の言語教育学の
潮流へと、しっかりとしたチャート(海図)をもって、皆さんをご案内します。

クローズアップ講義

第二言語習得

外国語の学習・教育実践に応用できる言語学習理論について深く学べる科目です。心理言語学、応用言語学、神経科学などの知見に基づき第二言語習得を可能にしている「こころの仕組み」について探求します。

英語教育実践

中学校や高等学校の授業で活用できる実践例を、背景にある理論も交えて知ることができる科目です。実践例としては、listening、speaking、reading、writingのほか、語彙、発音、文法などの指導例も取り上げます。

言語教育研究法

言語教育研究に必須となるデータ収集方法、質的・量的研究の実施方法、統計手法など基礎的な研究能力を養う科目です。実際に掲載された学術論文の批評やコンピュータ統計ソフトを用いたデータ解析など実践を通して学べるのが魅力です。

小学校英語教育実践

小学校で行う外国語活動では、何を目標としどのように活動をデザインするのか、その指導理論と方法について学ぶ科目です。指導計画の立て方、教材の効果的な活用方法、評価の在り方など小学校英語教育について様々な角度から考えます。

修士論文・課題研究論文テーマ(抜粋)

- A Practical Study of the Effectiveness of Using IPA in Teaching English Monophthongs to Japanese Preschool Children
- Educators' Perceptions of Using English Songs in Japanese Elementary Schools Including Songs That Draw on CLIL and CALL
- A Corpus-based Comparative Study of *be-ing* and *-teiru* Forms from the Perspective of Japanese Learners of English
- The Relationship between Autonomy and Performance among Japanese EFL Learners: Based on Self-Determination Theory
- Comparative Effects of Dictation, Reading Aloud, and Shadowing Practices on EFL's Listening Ability: Focusing on Sound Changes

Message from Students

2カ国で学べたからこそ、
より実証的な研究が進められました。

言語教育を学ぶための大学院を探していたところ、日本での講義に加えてイギリスの大学院でTESOLを学ぶことができる本プログラムのダブルディグリーコースのを知り、興味を持ちました。前期課程の半分を過ごしたスターリング大学は欧州でも5本の指に入ると言われる美しいキャンパス。勉強はハードですが癒される環境でした。授業はレポートが多く、自主性に任せられる分、遅れないようにモチベーションを持続することが大変でした。修士論文のテーマは、英語のEメールにおける依頼表現。学生が教授にメールで依頼をする場合、英国人、日本人、中国人の大学生の間でどのような表現の違いがあるのかを実証的に調べました。今後は後期課程に進み、修士論文の内容をより深めたいと考えており、その研究成果を活かして英語講師として活躍したいです。



鈴木 大介
前期課程 修士論文コース 2019年3月修了

言語教育をはじめ多彩な分野から、
英語教育に必要なことが学べます。

大学時代は英語をどう楽しむかを学びましたが、英語をどう教えるのかについてより詳しく知りたいと思い、本プログラムを選びました。どの講義も興味深く、教育学ばかりではなく、文化や言語、ディベートやプレゼンテーションなどの英語技能を伸ばす授業もあり、英語教師として必要なことが多く学べています。修士論文では、英語教育における外国語指導助手(ALT)の活用方法について取り組んでいます。ALTは各国の文化や考え方を伝えてくれる存在ですが、現状は発音モデルなどの役割にとどまっており、この状況を改善するためのアプローチを研究しています。卒業後は高校の英語教師になるので、研究結果を活かしてALTと連携し、生徒たちがグローバルで生きていく力が身につけられる授業を作りたいです。そして何より、英語を学ぶ楽しさを伝えていきたいです。



榛澤 美華子
前期課程 修士論文コース 2年



外国語・第二言語としての

日本語教育の 実践者

を育成

日本語教育学 プログラム

多くの修了生が日本語教育の
専門知識を活かして国内・海外で活躍

日本語教育を通じて地域社会・国際社会へ貢献できる人材輩出を目指します。それに関わる言語・文化・教育学の内容であればいずれもここで研究することができます。たとえば、音声学や語彙・文法の研究、日本語と他言語の対照、言語習得論、教授法と教材開発、コミュニケーション論、談話分析、社会言語学、心理言語学、言語教育政策、日本文学・文化論、メディアとカルチャーなどが挙



げられます。また、多様化する日本語教育のニーズに合わせた実践授業に加え、現職日本語教師のリカレント教育も行います。各分野の専門家である指導教員が温かく指導に当たっており、満足のいく研究ができます。修了生は、日本語学校や中高の教員、海外の大学教員、会社員などとして国内外で活躍しています。

クローズアップ講義

日本語教育研究(実践)

日本語学習者向け教材の分析、教案作成、模擬授業などを行いながら、日本語を教えるために必要な知識やスキルを身につけるための科目です。授業活動を通じて、問題解決の方法や効果的な指導法などを各自の実践をもとに考えます。

日本語会話分析法

対人コミュニケーションのプロセスを分析するためのツールとして社会学の分野で確立された「会話分析」(Conversation Analysis)の方法論について学ぶ。会話分析の理論的背景や基本的な考え方を押さえたあと、日常会話の構造を分析するためのさまざまな切り口を紹介し、各自が収集した具体的な会話データを分析できる素地を養成する。

日本語語彙・文法教育

日本語非母語話者を対象とする日本語教育を円滑に行うためには、日本語の語彙や文法の知識が必要です。この授業は、日本語非母語話者への日本語教育に必要な語彙や文法の基礎知識を学ぶことを目的としています。

日本語フィールド調査法

この授業では、多文化間コミュニケーションにおける「共通語としての日本語」をテーマとしたフィールド・ワーク調査を実施する。調査の全ての段階(企画・実施・データ分析)を共同で行い、社会言語学的観点からの言語/コミュニケーション研究の様々な調査/分析方法を紹介、検討、そして応用することが主な目的である。

修士論文・課題研究論文テーマ(抜粋)

- 日本語学習者の学習動機に見られる日本ポップカルチャーの影響
- 初対面における日韓ほめについての対照研究—会話分析によるアプローチ—
- 日本語教育における文学教材の可能性
- サ変動詞と共起する格助詞「に」「を」の交替に関する一考察—国会会議録を手掛かりに—
- 若者の「方言」意識—関西・九州を比較して—
- 相互文化理解を目指した授業づくりに関する一考察—自己表象のディスコースに注目して—

Message from Students

充実した研究生生活と多くの出会いを通して、
人間としても成長できました。

中国の大学院時代、現在の指導教員である于康先生の北京で行われた講演を聴いて研究内容に興味を持ち、ダブルディグリープログラムにより来日。これまで、中国語を母語とする日本語学習者の格助詞の誤用について研究してきました。学習者作文コーパスで検索すると、格助詞の「で」と「を」を誤用する現象が多く見られ、そのメカニズムを解明することが目的です。ゼミは発表が中心。厳しくも温かな指導のおかげで、毎回しっかりした発表ができ、修士論文も早めに書き上げられました。本研究科には、社会人、大学生、外国人留学生など様々なバックグラウンドを持つ、幅広い年齢層の方々が集まっており、共に切磋琢磨し、励まし合い、良い刺激を受けました。勉強以外にも学ぶ部分が多く、有意義な留学生活を楽しむことができ、私にとって大変素晴らしい経験でした。



陳超
前期課程 修士論文コース 2019年3月修了

実習を通して経験と自信を手に入れ、
日本語教師という目標に近づけました。

プロフェッショナルプログラムを選択した最大の理由は、授業準備から振り返りまでの一連の流れを経験できる実習授業があることです。大学卒業後、日本語教師になりたいと考えていましたが、教育現場を知らないまま日本語教育に携わることに不安がありました。「日本語教育実践」の授業では、教育現場で使われている教材の分析や模擬授業を通して日本語を教えるための基礎を学んだ上で、自分たちで授業計画を立てて教本やポスターを作り、実際に教壇に立って留学生に向けて授業を行いました。すべてが初めてで大変でしたが、参加者から直接感想を聞くことができ、非常に貴重な経験ができました。今後は後期課程へと進学し、修士論文で取り組んだテーマを違う角度から取り組みたいと考えています。そして将来、大学で留学生に日本語を教えるのが目標です。



肥田 葉奈
前期課程 修士論文コース 2019年3月修了



カリキュラムと修了要件 (前期課程)

科目区分		言語コミュニケーション能力養成科目		領域研究科目			実習科目	演習科目			修了必要 単位数												
授業科目の名称(単位数)		<基礎科目> 言語コミュニケーション文化特論(2) 異文化コミュニケーション論(2) スピーチ・コミュニケーション論(2) ことばと文化(2) 英語と文化(2)		<運用能力養成科目> [英語科目] 英語インテンシブ・リスニング(2) 英語オーラル・プレゼンテーション(2) 英語ディベート(2) 英語クリエイティブ・ライティング(2) 英語アカデミック・ライティング(2) [フランス語科目] フランス語論文作成(2) フランス語読解(2) フランス語コミュニケーション(2) [ドイツ語科目] ドイツ語論文作成(2) ドイツ語読解(2) ドイツ語コミュニケーション(2) [中国語科目] 中国語論文作成(2) 中国語読解(2) 中国語コミュニケーション(2)			<言語科学領域> 言語科学(2) 言語意味論(2) 言語語用論(2) 社会言語学(2) バイリンガリズム(2) 音声科学(2) 言語表現論(2) 辞書学(2) 心理言語学(2) 言語習得論(2) 言語構造論(2) 対照言語学(2) コーパス言語学(2) 言語障害学(2)			<言語文化学領域> 言語文化学(2) 思想と文化(2) 演劇学B(2)* 多言語主義・多文化共生(2) 英語圏文化(アメリカ)A(2)* 英語圏文化(イギリス)B(2)* ドイツ語圏文化A(2)* 中国語圏文化B(2)* 比較文化学(2) 批評と文化(2) 映画学A(2)* 日本文化A(2)* 英語圏文化(アメリカ)B(2)* フランス語圏文化A(2)* ドイツ語圏文化B(2)* 異文化理解(2) 演劇学A(2)* 映画学B(2)* 日本文化B(2)* 英語圏文化(イギリス)A(2)* フランス語圏文化B(2)* 中国語圏文化A(2)*			<言語教育学領域> 言語教育学(2) カリキュラムデザイン(2) 教育評価B(2) 英語教育教材研究(2) 英語教育実践(2) 言語教育政策(2) 第二言語習得(2) 授業分析(2) 言語教育研究法(2) 小学校英語教育実践(2) 英語教授法実践(2)【注2】 言語学習心理学(2) 教育評価A(2) 英語教育法(2) 早期英語教育理論(2) 言語教育と社会(2)			<日本語教育学領域> 日本語教育学概論(2) 日本語読解・文法教育(2) 日本語会話分析法(2) 日本語と中国語の翻訳研究(2) 日本語音声教育(2) 言語習得と日本語教育(2) 日本語フィールド調査法(2) 日本語と英語の翻訳研究(2) 日本語文字・表記教育(2) 言語社会と日本語教育(2) 日本語翻訳論(2) 日本語教育トピックス(2)			日本語教育実践I(3) 日本語教育実践II(3)	研究演習I(2)	研究演習II(2)	課題研究(2)	30単位
修士論文コース	言語科学領域	言語科学プログラム	2単位	・英語科目 ・ドイツ語科目 ・フランス語科目 ・中国語科目	} の中から6単位	14単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位	—	30単位											
	言語教育学領域	言語教育学プログラム				・英語科目 ・ドイツ語科目 ・フランス語科目 ・中国語科目	} の中から6単位	14単位	(各語圏文化の2単位とそれ以外の言語文化の領域研究科目2単位を含む)	—	4単位		4単位	—									
	言語文化学領域	地域文化研究プログラム						・英語科目 ・ドイツ語科目 ・フランス語科目 ・中国語科目	} の中から2単位	18単位	(多言語主義・多文化共生の2単位とそれ以外の言語文化の領域研究科目2単位を含む)		—	4単位	4単位	—							
		多言語多文化学際プログラム								18単位	(演劇学A・B、映画学A・Bの中からの2単位とそれ以外の言語文化の領域研究科目2単位を含む)		—	4単位	4単位	—							
	映像演劇文化プログラム	—				—	—	—	—	—	—		—	—									
日本語教育学領域	プロフェッショナルプログラム	—	【注1】	—	16単位	(日本語教育学の領域研究科目10単位を含む)	6単位	—	—	—	—												
	アカデミックプログラム	22単位			(日本語教育学の領域研究科目8単位を含む)	—	4単位	4単位	—														
	日本学ダブルディグリープログラム	22単位			(日本語教育学の領域研究科目8単位を含む)	—	—	—	—														
課題研究コース	言語科学領域	言語科学プログラム	2単位	・英語科目 ・ドイツ語科目 ・フランス語科目 ・中国語科目	} の中から8単位	16単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	—	—	4単位	30単位											
	言語教育学領域	言語教育学プログラム																					
ダブルディグリーコース スターリング大学	言語科学領域	言語科学プログラム	IELTS6.5以上 に相当する者	2単位	英語科目の中から4単位(1年春学期に履修)	16単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位	—	30単位											
			IELTS6.5未満に 相当する者										英語インテンシブ・リスニング 英語オーラル・プレゼンテーション 英語アカデミック・ライティング	6単位必修 (1年春学期に履修)	14単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位	—			
	言語教育学領域	言語教育学プログラム	IELTS6.5以上 に相当する者	2単位	英語科目の中から4単位(1年春学期に履修)	16単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位	—												
			IELTS6.5未満に 相当する者										英語インテンシブ・リスニング 英語オーラル・プレゼンテーション 英語アカデミック・ライティング	6単位必修 (1年春学期に履修)	14単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位	—			
学位コース 英語教員対象 3年制修士	言語教育学領域	言語教育学プログラム	2単位	—	—	24単位	(英語教授法実践2単位とそれ以外の言語教育学プログラムの領域研究科目18単位を含む)	—	4単位	—	—	30単位											

【注1】日本語教育学の各プログラム生が「ことばと文化」、フランス語科目、ドイツ語および中国語科目を除く言語コミュニケーション能力養成科目を履修するためには、TOEFL iBT61点以上またはTOEFL ITP 500点以上(いずれも提出時点で受験日から2年以内のもの)、またはTOEIC (TOEIC-IPを含む) 600点以上のスコアを有することを条件とする。

【注2】英語教授法実践は、英語教員対象1年制修士学位コース学生以外には履修不可。

☆領域研究科目の開講原則:4学期間に最2回(言語科学と言語教育学は昼と夜を各1回)開講する。

☆「演劇学」、「映画学」、「日本文化」、「英語圏文化(アメリカ)」、「英語圏文化(イギリス)」、「フランス語圏文化」、「ドイツ語圏文化」、「中国語圏文化」、それぞれA・Bともに隔年開講する。(A・Bあわせて、4学期間に2回開講する。)

修了生からのメッセージ

大切な財産となっています

「英語教育を科学的に学んでみたい。」そんな動機で入学した言コミ。大学院での日々は、先生方から授業を通して専門的な学びや、自分では想像もつかない教育的な視点を教えていただき、同時期に入学した方々とは、研究室で日々色々な疑問を共有したり、一緒に調べたりと大変充実していました。大学院を卒業してからも、その学問に対する探究心は衰えることなく、中高の教員となった今でも、授業の中で生徒たちの反応にアンテナを張り、気になることがあれば、論文で根拠を求めたり、逆に、学んだ理論を授業に応用したり、日々試行錯誤しています。私の根底には常に大学院での日々があります。きっとこれからも原点として、教師生活を支えてくれることと思っています。



中西 洋平

2017年3月卒業
2017年4月より、
啓明学院に勤務

社会人で言語学、日本語を学ぶ第一歩として

私が言コミに興味を持ったのは、仕事で音声認識のAIに関わることになった2年前です。大学では、数学を専攻しており、言語に興味を持つことはありませんでした。しかし大学院に入って言語科学の基礎科目を学ぶにつれ、どんどん引き込まれていきました。中でもスピーチアナライザを使用した音声分析には、特に興味を持ち、課題研究も役割語(キャラ語)の音声的考察を行いました。仕事をしながら、梅田キャンパスで授業、ゼミを受講でき本当に充実した2年間の学生生活を送りました。それから半年に一度行われる言コミフォーラムは、学外の専門家の講演を聞けるだけでなく、先輩または同期の研究発表の場となり、大変有意義な情報収集の場です。



小林 明尚

2019年3月 前期課程修了
課題研究コース(言語科学)
アマゾンジャパン合同会社
Alexaデータサービス部・
シニアマネージャー

Better Communication, Better World

旅行に来た際、日本文化の特徴、すなわち異文化を取り入れ、自国文化と融合させ、新しいものを作り出すことに非常に優れているという点に感心しました。そこで、大学を卒業した後、上海から日本に来ました。英語を専攻していたので、来日してから多言語の奥深さと面白さをより一層感じました。様々な言語と文化を学習して、比較するために言コミへの入学を決めました。研究を通じて、マスコミが発達している今こそ、多言語社会における文化のルーツと特徴を学ばせたいと確信しています。現在は文化共生の一助となるべく、研究を続けています。素敵な言コミで、皆さん、共に頑張る、異なる文化背景を持つ方々とコミュニケーションを図りましょう。



劉 熙

2016年3月 前期課程修了
修士論文コース(言語文化学)
2016年4月 後期課程入学

自分でできることを頑張っていくこと

私は韓国で日本語を教えたいと思って留学を決め、大学卒業後、そのまま大学院への進学を決意しました。最初は、留学生であり日本語教育学についての知識があまりないゆえに大変な部分がありましたが、先生の素晴らしいご指導のおかげで、充実した研究生生活を過ごすことができました。研究生生活をしながら、外国人である私が日本で日本語を教えることができるかどうか不安でしたが、自分ができることを頑張ってやっていくうちに、先生方に認めていただき、現在は留学生に日本語を教えることができるようになりました。昔からの「日本語講師になりたい」という夢が叶ったのは、大学院で学んだことや言コミで素晴らしい方々と出会えたおかげだと思います。これからも、大学院で学んだことを活かしつつ自分ができることを頑張ってやっていきたいと思っています。



張 承茹

2012年3月 前期課程修了
2015年3月 後期課程満期退学
日本語講師

■ 本研究科修了生の進路状況

本研究科入学者には、大学学部を卒業してすぐに入学する人、仕事を続けながら入学する人、仕事をやめて入学する人、休職して入学する人などがいます。結果として、入学者の職種や年齢構成も幅広く多岐にわたるため、多様なバックグラウンドをもった学生の集まりとなっています。また、関西学院大学以外の大学卒業者が多いのも大きな特徴です。本研究科前期課程修了生の進路は、就職が一番多く、その他本研究科後期課程や他の大学院に進学する人もいます。修了生のうち、就職者(前職への復職・現職の継続を含む)は51.6%、そのうち学校関係(中学、高校、短期大学、大学、専門学校などの言語教育担当教員)への就職が61.8%となっています。学校関係(教員)への就職者が多いことが特徴です。

修了生の進路状況

(2003年3月～2019年3月修了)

修了生	就職者 212名 (51.6%)	(内訳)		進学者 66名 (16.1%)	その他 132名 (32.1%)
		教員 131名	教員以外 82名		
411名	212名 (51.6%)	131名	82名	66名 (16.1%)	132名 (32.1%)

就職者のうち61.8%が教員として就職(前職への復職・現職の継続を含む)

■ 主な就職先一覧

日本電気、京セラ、伊藤忠商事、イーオン、デンソー、読売旅行、エイチ・アイ・エス、ベネッセコーポレーション、ECC外語学院、ヤマハ英語教室、日本電子、大広、プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン、メルリックス、楽天、アンスティチュ、フランセ日本、河合塾、エスシー、日本タタ・コンサルタンシー・サービス、ニトリ、Asian Bridge、エクセディ、小松製作所、フルタ二産業、マルアイ、暁学園、梅村学園、開智中学校・高校、大阪学芸、大阪信愛女学院、大原学園、関西学院、啓明学院、甲南学園、神戸山手学園、此花学院、須磨学園、瀧川学園、仁川学院、睦学園、カナディアン・アカデミー、東北学院大学、近畿大学、サイアム大学、大阪府立大学、大阪教育大学附属池田小学校、大阪教育大学附属天王寺中学校、中国・大連交通大学、兵庫県高校教員(英語)、西宮市中学校教員(英語)、神戸市中学校教員(英語)、大阪府高校教員(英語)、広島県高校教員(英語)、石川県高校教員(英語)、奈良県高校教員(英語)、その他

大学院担当教員 (2019年4月現在)

前 前期課程指導教員
後 後期課程指導教員

教員の研究内容の詳細については、研究科 Web http://www.kwansei.ac.jp/g_language/ の「教員一覧」および研究業績データベース <http://www.kwansei.info/src/> を参照

言語文化学

阿部 卓也 准教授

ドイツ語現代文学、メディアオロジー、西洋古典音楽の拍節論

現在の中心課題は1750～1900年頃のクラシックの拍節論。いわゆる古楽や現代音楽に関する言説は嬉しいが、クラシックのスタンダードとされてきたこの時代にこそ、理論上の重大な欠落があると考えている。

言語科学

言語教育学

石川 圭一 教授

応用言語学、心理言語学、第二言語獲得

ことばの仕組みとその認知メカニズムに関心があります。第二言語の獲得・学習過程の研究を行っており、新しい語彙や文法を学ぶ際、潜在的な学習と明示的な学習ではどのように異なるのか等について調べています。

言語文化学

伊藤 正範 教授

イギリス文学、モダニズム小説、ジャーナリズム、労働運動、群衆

19世紀末～20世紀初頭のイギリス小説を主な題材に、テキストと当時のイギリス社会・文化との関わりについて研究しています。特に、ジャーナリズムや労働運動の発展が、小説というジャンルの成長にどのように影響していたかという点に関心を持っています。

言語科学

茨木 正志郎 准教授

理論言語学、史的統語論、文法化

言語は時代とともに変化しますが、特に英語はその歴史の中で相当な変化を受けてきた言語で、様々な興味深い現象が観察されます。このような現象に対して、私は生成文法という言語理論を用いて、英語の歴史的変化の要因とメカニズムの解明を試みています。

言語文化学

岩松 正洋 教授

物語理論、小説史、思想史、サブカルチャー研究

小説(とくに非リアリズム小説)を物語論やコミュニケーション論の観点から理論的に研究しています。また哲学や心理学、認知科学の知見に頼りつつ、文学作品の構成・受容を日常の発話行為や聞く行為の延長に置いて分析しています。

日本語教育学

言語科学

于 康 教授

日本語学、日本語と中国語の対照研究、日本語の誤用と日本語習得の研究

主に取り組んでいる研究内容：日本語の語彙研究と文法研究、語彙や文法を中心とする日本語と中国語の対照研究、中国語母語話者日本語学習者の誤用研究及び習得難易度やバックスライディングに関わる日本語の習得研究。

言語文化学

上田 和彦 教授

フランス思想、フランス革命、プランショ、ラクー＝ラバルト

現代思想で問題となる「文学」、「倫理」、「政治」、「宗教」をフランス革命まで遡って考察しています。目下、フランス革命で民主主義が創設される際、なぜ恐怖政治が起こったか考えています。

言語科学

内田 充美 教授

英語コーパス言語学、英語の歴史における言語接触

(現代)英語を対象として、人が言語をどのように用いているのかを研究しています。実際に用いられた言語資料を観察する方法で、科学的に適切な記述をすることを目指します。

言語科学

言語教育学

梅咲 敦子 教授

英語コーパス言語学、ESP教育、レジスター、ジャンル分析、語彙文法研究

コーパスを利用した実証的研究とその成果を英語教育に活かすことを目指し、英語の類義語・コロケーション・定型表現研究を文脈や言語使用状況(レジスター)・ジャンルと関連づけて行っています。

言語教育学

大喜多 喜夫 教授

コミュニケーション能力の育成、中学校・高等学校学習指導要領外国語、4技能の統合

中学校・高等学校学習指導要領に基づき、英語教育はコミュニケーション能力育成のための学習へと転換した。この新しい学習形態で見られる、4技能(聞き、話し、読み、書く)を統合的に育成する学習活動を、調査し研究しています。

言語科学

言語教育学

日本語教育学

大高 博美 教授

音韻学、言語の音声・音韻体系に関する実証的研究、外国語教授法、文法論、言語習得論、言語文化論

大学院での勉強の目的は、知識をできるだけたくさん詰め込むことにあるのではなく、研究の方法(つまり思考方法、具体的には「問いのたて方」、「検索方法」、「論の運び方」、など)を習得することにあります。

言語文化学

大東 和重 教授

日中比較文学、日本近現代文学、中国近現代文学、台湾文学、比較文化論

日本・中国・台湾の文学を、比較文学・文学史研究の手法で研究しています。日露戦後の文学や、郁達夫と大正文学、台南の文学について本をまとめました。外国人の見た日本・中国・台湾についても関心があります。

言語文化学

小笠原 亜衣 教授

モダニズム、アメリカ芸術、アーネスト・ヘミングウェイ

特に1920年代パリ・モダニズム芸術運動における散文と視覚芸術の相互影響関係について、ヘミングウェイなど米モダニズム作家・芸術家を中心に研究しています。

言語文化学

河村 克俊 教授

西洋近代哲学、ドイツ啓蒙、自由論、概念史的方法、カント

これまで主に、西洋近代思想史にみられる「自由」について考えてきました。自由は、自律や自発性と同義語とされることがあり、また善悪の問題に関わります。そして自然科学的決定論、運命論、充足根拠律等と矛盾する関係にあります。

言語文化学

禪野 美帆 教授

文化人類学、ラテンアメリカ地域研究、現代の先住民

先住民と呼ばれる人々が、グローバル化した社会環境を利用しながら、自分たちの文化やアイデンティティの独自性を主張あるいは生成するプロセスについて、特にメキシコを中心に、フィールドワークに基づく研究をしています。

言語教育学 言語文化学

中川 慎二 教授

異文化間教育、授業分析、談話分析、海外日本人コミュニティ、言語教育政策、欧州共通言語参照枠、政治教育、識字教育

異文化理解、海外日本人コミュニティ、多文化共生、政治教育、言語教育政策、識字教育について、歴史的経緯とその実態をフィールドワーク(参与観察、インタビュー)から主に質的に解明し、共生の未来を考えています。

言語文化学

岡田 弥生 教授

アメリカ文学、英米文化、キリスト教、哲学、表象文化論

アメリカ文学、特にアメリカ南部社会にあって魂の救済を求めたWilliam Faulknerと、精神的に荒廃した現代社会において真のロゴスに至る道を希求したT.S. Eliotの作品を哲学、キリスト教思想から読み解いています。

言語教育学

工藤 多恵 准教授

英語教育、協同学習、教材開発

学習者の自律性を高める教授法やアプローチに関心を持っています。特に習熟度が低く、英語に苦手意識を持つ学習者を対象とした教材開発、アセスメント方法や教授法の考案に取り組んでいます。

言語科学

田中 裕幸 教授

理論言語学、生成文法、原理・パラメータ理論、統語論

人間の認知能力を取り扱う科学の一分野としての言語学、特に統語論(文の構成法)を中心に研究を行っています。自然科学の方法で、複雑に見える言語に潜む規則性や普遍性に迫ることができるのがこの分野の醍醐味です。

言語科学 言語教育学 日本語教育学

中野 陽子 教授

心理言語学、第一言語または第二言語としての日本語と英語の形態素処理と文処理

眼球運動や事象関連電位を指標とした実験を行いながら、母語または外国語としての日本語や英語の形態素の処理や、文処理における文脈の影響について調べています。

日本語教育学 言語科学

Teja Ostheider 教授

コミュニケーションの社会心理学、言語教育政策、共通語としての日本語

言語政策、言語教育、言語権、言語行動、言語意識、アイデンティティ、バリアフリーなど、様々な観点から「マイノリティ」に対するコミュニケーションを研究しています。例えば、「外国人」や「障害者」と呼ばれる人々について調査しています。

言語教育学 言語科学

氏木 道人 教授

英語教育、英語リーディングの指導・習得、英語語彙の指導・習得、音読とシャドーイングの効果検証

主に語彙・リーディング指導とリーディングスキルの習得に関心があります。効果的な英語の授業には、理論とデータ検証に基づいたアプローチが必要です。理論から実践への橋渡しとなる英語教育研究を目指します。

言語文化学 日本語教育学

田村 和彦 教授

トーマス・マン、20世紀ドイツ、身体論と植民地主義

文学研究から出発して、文化・社会へと研究範囲を広げている。ドイツを専門とするが、日本における近代化の問題や、言語やイメージの政治学、植民地主義といったグローバルな問題にも関心を持っています。

言語文化学 日本語教育学

西村 正男 教授

中国近現代文学、中国メディア文化史、中国語圏の映画、日中文化交流、ポピュラー音楽、東アジアレコード文化史

本来の専門は中国文学ですが、ポピュラー音楽研究や映画研究にも関心を持ち、中国や香港・台湾などの音楽や映画の歴史を調べています。日本との関わりについても関心を持っています。

言語文化学 言語教育学

柿原 武史 教授

言語政策、言語教育、スペイン語学、少数言語、移民問題

スペイン・ガリシア語をめぐる言語政策、特に教育に関する政策を研究している。政治的論争が子どもの言語教育に与える影響について関心がある。その他のスペイン語圏における言語教育政策、日本における外国語教育政策、外国人の子どもの教育にも興味がある。

言語文化学

島貫 香代子 准教授

アメリカ文学・文化、アメリカン・ドリームのリトリック、場所の感覚と帰属意識、ウィリアム・フォークナー

20世紀アメリカ南部作家ウィリアム・フォークナーを中心に、アイデンティティと場所の関係性について研究しています。「アメリカン・ドリーム」という言葉がいかにかにアメリカの理想と現実と反映されているかについても関心を寄せています。

言語文化学

塚田 幸光 教授

映画学、表象文化論、クロスメディア、アメリカ文学(ヘミングウェイ、フォークナー、モダニズム/ファシズム)

アメリカを軸とした映像文化の研究をしています。映画、写真、ジャーナル、文学など、網状のテキスト/コンテキストの中で変化する複数の「文化」に対し、クロスメディアの視座からその欲望の性/政治学を考察しています。

言語教育学

長谷 尚弥 教授

リーディング指導、パラフレーズ、統語解析の自動化、アメリカのバイリンガル教育、言語教育の持つ社会政治的意味

英語教育、特にリーディング指導に興味を持っている。また、アメリカにおけるバイリンガル教育の経験から、言語や言語教育の持つ社会政治的な意味合い、アメリカバイリンガル教育の日本の英語教育への応用にも関心を持っている。

言語教育学 言語科学

門田 修平 教授

シャドーイング・音読、メンタルレキシコン、語彙学習、L2リーディング、L2リスニング

専門は心理言語学、応用言語学。第二言語としての英語が、いかにして知覚・処理され記憶・学習されるかその仕組みについて研究しています。趣味は、食べて、飲んで、唄うこと。それと旅行。カラオケの選曲は多種多様です。

言語教育学

住 政二郎 准教授

CALL、項目応答理論、ダイナミック・アセスメント

外国語教育におけるテクノロジー利用をテーマに、現在は、項目反応理論を応用したダイナミック・アセスメントの手法の開発と実践への応用に取り組んでいる。

言語科学 言語教育学 言語文化学

寺沢 拓敬 准教授

言語社会学、言語政策、英語教育史、言語使用・言語イデオロギーの政治経済的分析、批判的応用言語学

言語現象(言語使用、言語に対する態度、言語教育)について社会科学理的な理論・手法を用いて検討している。主たるフィールドは日本、得意な分析手法は史資料の内容分析および社会統計である。「日本社会と英語」に関する研究が多いが、それ以外の言語現象にも関心がある。

日本語教育学

長谷川 哲子 准教授

アカデミック・ライティング教育、留学生の作文に関するピリーフ、日本語ライティング教材の開発

日本語教育が扱う分野の中で、特にライティングの分野に関心を持っています。文章の分かりやすさや書くことに対するピリーフなどが最近関心を持っているテーマです。

言語コミュニケーション能力養成科目担当

Vivian Bussinger-Khavari 准教授

second language acquisition, heritage language education,

My research is mainly divided into two areas: Second Language Acquisition (SLA) and Heritage Language Education (HLE). Within SLA, I focus on the teaching of English as a second or foreign language (ESL/EFL) and within the field of HLE, I study the first language maintenance and second language acquisition of immigrants children.

言語文化学 日本語教育学

関谷 一彦 教授

フランス文化、マルキ・ド・サド、リベルタン文学、リベルタン版画、春画

これまでフランス18世紀文学や文化を研究してきましたが、その中でも今はリベルタン文学を翻訳・紹介することに力を注いでいます。また、フランス文化を研究対象とする院生も受け入れたいと思います。

言語科学 日本語教育学

田 禾 教授

対外漢語、現代中国語文法、特定文型の使用条件、日本人学習者の誤用分析

日本人の中国語学習者を対象とする「対外漢語」の分野で、誤用例を分析しながら、現代中国語の文型及び言葉の使用条件について研究を進めております。中には中国語における類義語と類義表現の分析にも興味を持っております。

言語教育学 言語文化学

福地 直子 准教授

カウンセリング心理学・英語教育方法論・異文化間教育

異文化適応、異文化間能力、多文化共生におけるカウンセリングマインド養成教育に関心を持っています。多文化共生社会に向け、新しい社会教育実践モデルの検討、異文化理解教育の発展などに取り組んでいます。

言語文化学

藤田 友尚 教授

前後

シャルル・ノディエ、フランス革命からロマン主義時代に至る政治文化とジャーナリズム、「間テクスト性」、政治的装置としてのオペラ

Comment: 研究の主眼は、革命とそれに続く動乱期の政治文化の変容をノディエがいかに創作技法に反映させながら作品を構築しているかという点にある。同時に、19世紀フランスにおける権力装置としてのオペラの表現にも注目している。

言語文化学

藤野 真子 教授

前後

中国演劇、劇評論、中国民間芸能、中国近現代文学、上海文化、中国メディア・出版史、呉方言文芸

Comment: 20世紀上海における、京劇を中心とした伝統演劇の動向分析をテーマとしている。特に、観客のニーズを踏まえた演技・演出・演出の改革、メディアの発達と劇評との関係を中心に研究を行っている。また関連ジャンルとして、同時期の文学、言語等にも目配りしている。

言語文化学

増永 俊一 教授

前後

19世紀アメリカ文学 (Antebellum)、アメリカ文化史、ツーリズム、ピューリタニズム、N. ホーソー

Comment: 主として19世紀前半のアメリカ文学・文化が考察対象である。社会的、経済的、政治的コンテキストと、作家固有の言語表現や文学技法といった美学との交差に関心があり、現在は特に19世紀ツーリズムの発展と芸術表現との関連について考察を進めている。

言語科学

言語教育学

村上 陽子 教授

スペイン語学、スペイン語教育、外国語教授法、授業分析

Comment: スペイン語をはじめとする外国語教育において、学習方法による学びの変化を文法教育の視点から考察しています。また、スペイン語話者の言語行動に興味があり、口語コーパスの分析やアンケート調査を通じて、挨拶、依頼などの言語行動について研究しています。

言語文化学

森田 由利子 教授

前

イギリス小説 / 文化、ライフ・ライティング、ヴァージニア・ウルフ

Comment: イギリス小説 / 文化研究が専門領域ですが、留学時より、「ライフ・ライティング (Life-writing)」というジャンルに興味を持って研究を進めてきました。伝記や自伝、さらには、肖像画や写真、家や建築物なども「ライフ・ライティング」であると捉え、考察しています。

日本語教育学

森本 郁代 教授

前後

応用言語学、第二言語習得、普遍文法、L2としての英語・日本語習得、空代名詞、冠詞

Comment: 人々が会話をしたり一緒に共同作業をしたりといった、社会生活のさまざまな場面における日常的な活動をどうやって行っているのかを、録音や録画データを基に言語と非言語(体の動きや視線など)の両面から研究しています。

言語科学

言語教育学

山田 一美 教授

前

応用言語学、第二言語習得、普遍文法、L2としての英語・日本語習得、空代名詞、冠詞

Comment: 第二言語習得 (SLA) では、母語の影響、段階的な発達、体系的、多様性、不完全性が観察されています。これらの現象にはどのような説明が可能なのでしょう? SLAのメカニズムや習得モデル、また、言語教育への示唆について考察を進めています。

言語科学

言語教育学

山本 雅代 教授

前後

バイリンガリズム、同時バイリンガル、第1言語としてのバイリンガル、言語習得・発達、言語使用

Comment: 2つの言語を同時に習得し始める同時バイリンガルの子どもは、それらの言語をどう習得、発達させ、使用しているのか、またそうした子どもを取り巻く家庭や社会の言語環境はどのようなものかを調査・研究しています。

言語文化学

李 建志 教授

韓国朝鮮研究、ナショナリズム、在日朝鮮人問題、比較文学、マイノリティ問題、朝鮮王族の研究

Comment: 朝鮮文学・文化を研究が研究の出発点です。現在は韓国華僑の問題、アイヌ問題、小笠原西洋系島民、石垣島台湾系島民、パラオの日本語世代、旧外地からの引揚者などを、日本社会と離れたエスニックグループと捉えて研究しています。

言語文化学

Hans Peter Liederbach 教授

日本哲学 (京都学派)、西洋哲学 (近現代)、比較思想 (西洋 / 日本)

Comment: 和辻哲郎のハイデガー受容が私の研究の発端であった。現在の私の主な関心は、日本哲学、とりわけ京都学派の現代的意義を検討することにある。この際、西田幾多郎と新実在論 (new realism)、和辻哲郎とケア倫理、九鬼周造と他者論などのテーマを研究し、京都学派が現代哲学に貢献できることを掘り出している。

言語コミュニケーション能力養成科目担当

Andrew Nowlan 言語常勤准教授

internationalization, intercultural competence, student mobility, second language acquisition

Comment: Greetings! In the current knowledge economy, global interconnectedness provides many exciting opportunities to build cross-cultural competences, even in an ethnically homogenous country, like Japan. I try to apply an international dimension to all aspects of the learning process by drawing not only on my personal, professional, and academic experiences, but also those of the students. I look forward to our discussions and collaborations.

01

セメスター制と授業開講時間帯

原則として半年開講のセメスター制を採用し、昼夜開講のカリキュラムを編成しています。また一般学生、社会人学生の区別なく授業を開講し、言語科学プログラムと言語教育プログラムでは夜間授業のみの履修でも修了に必要な単位を修得することができます。

02

教職課程 (専修免許) の設置

前期課程では、専修免許 (中学英語、高校英語) を取得することができる教職課程を設置しています。言語科学・言語教育学プログラムでは、一種免許 (中学英語、高校英語) をすでに取得している場合、本研究科の修了必要単位を修得することで、免許申請に必要な単位をほぼ修得することが可能です。

04

大阪梅田キャンパス (K.G. ハブスクエア大阪)

夜間授業 (VI時限・VII時限) は原則として大阪梅田キャンパスで実施します。梅田キャンパスでは、専門職大学院経営戦略研究科の授業を実施している他、学部学生の就職支援活動、各種セミナー、産学連携、研究会活動、同窓会などの活動が行われています。

03

単位数による学費納入制度

社会人入試で入学した者で、修了まで2年を越える履修計画の場合、履修単位数を基礎とした学費納入方法を選択することが可能です。入学時において決定した学費納入方法については、修了まで変更することはできません。

05

大学図書館

<西宮上ヶ原キャンパス>
蔵書数約150万冊で、西日本有数の規模を誇り、国内外のあらゆるデータベースが活用できます。また、申込制による研究個室も利用できます。

授業・研究に対する充実したサポート体制



07

データベース・コーパス

以下の4種類のデータベースが利用可能です。
・Linguistics and Language Behavior Abstracts (LLBA)
・MLA International Bibliography
・British National Corpus (BNC)
・WordbanksOnline
他にも本大学図書館が契約する各種データベースが利用できます。

06

言語コミュニケーション・フォーラム

各学生が研究成果を発表し、各方面の研究者 (学会構成員である教員や院生) からコメントや助言を受けることができる場として、毎学期 (年2回) 開催されます。フォーラムでの発表は、論文や研究成果の方向性を段階的に確認し、他者の視点を加えて論文の質を高めることを目的としています。また、各分野の著名人、専門家の講演等も随時開催され、最新の研究についての情報を吸収することもできます。

10

言語コミュニケーション文化学会

「言語コミュニケーション文化学会」は、本研究科の教員と現役学生および修了者からなる学会組織として、2001年4月1日付にて関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科開設と同時に設置された学会です。この学会の主な活動には、毎年9月と2月に開催される「言語コミュニケーション・フォーラム」と研究雑誌『言語コミュニケーション文化』の発行があり、その他にも言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学に関わる著名な研究者を招いて講演会を実施し、最新の研究についての情報を学会員に提供しています。また、研究雑誌『言語コミュニケーション文化』は、前期課程・後期課程修了者、後期課程満期退学者および在学中の学会員等の研究成果発表の場であり、原則として年1回発行します。

08

交換留学

交換留学は、本学に在籍しながら、協定大学へ1学期間または2学期間 (1年) 留学できる制度です。本研究科協定先のサンフランシスコ州立大学をはじめ、関西学院大学の協定校への留学が可能です。

09

学生共同研究室

<西宮上ヶ原キャンパス>
大学院棟 (1号館) 内に、院生専用スペース (延べ86席、パソコン45台設置) があり、夏季および冬季休暇期間以外は23:00まで利用可能です。また、G号館1階に、本研究科院生専用の共同研究室があり、自習や院生の情報交換の場として活用されています。